

3 4 港湾・空港の強化と連携した広域幹線道路網の整備推進について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 国際物流・交流拠点となる港湾・空港へのアクセスや広域交通の迅速性・定時性を確保するため、名古屋環状2号線、名豊道路、西知多道路などの道路整備を推進すること。特に、名古屋環状2号線の西南部・南部（名古屋西～飛島）に関しては、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律の一部改正案」を早期に成立させ、会社施行方式として必要な事業費を確保し、早期整備を図ること。
- (2) 港湾・空港機能の充実をできる限り広域で受けとめられるよう、新東名高速道路や三遠南信自動車道などの広域幹線道路ネットワークの早期整備と充実強化を図ること。
- (3) 高速道路の料金施策を始めとする道路行政の抜本改革に当たっては、地域の実情や意見を十分に踏まえること。

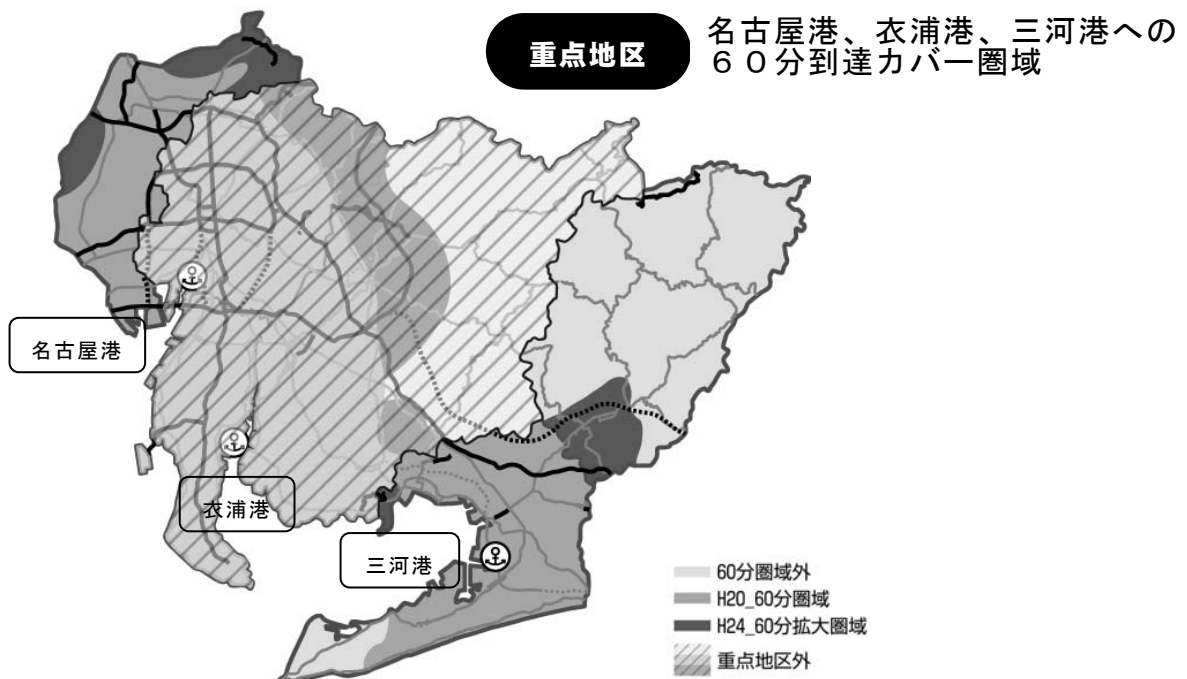
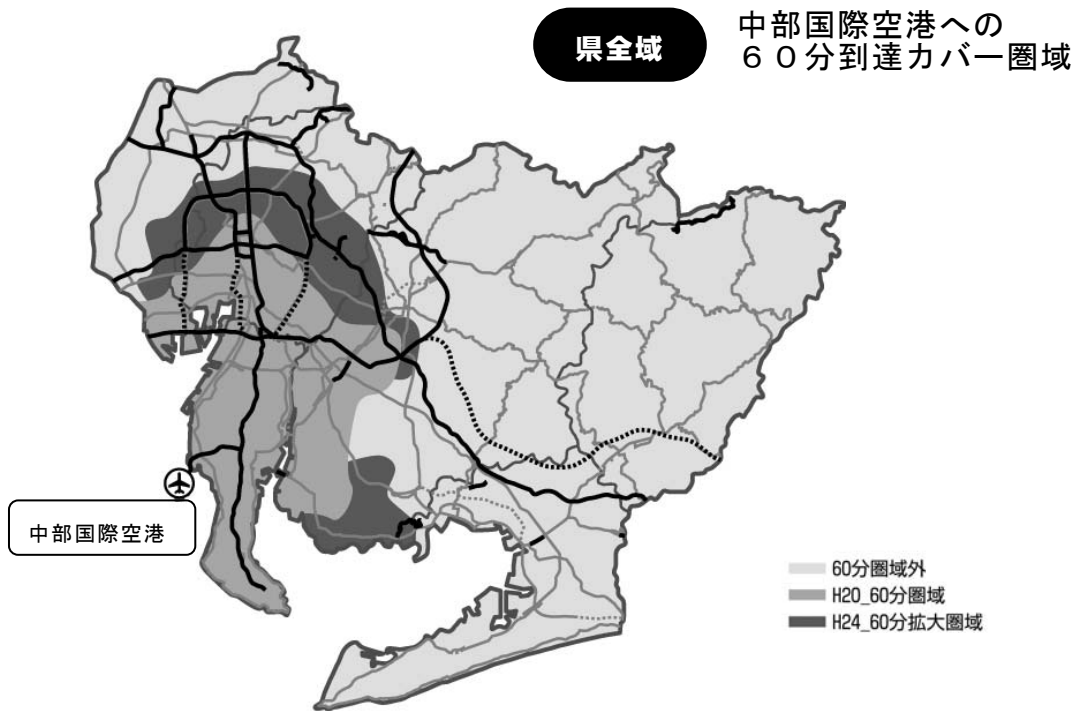
(背景)

- 名古屋環状2号線は、東部・東南部（名古屋南JCT～高針JCT間）が平成22年度に完成予定である。一方、西南部・南部（名古屋西JCT～飛島IC間12km）は唯一残されたミッシングリンクであり、この区間の整備により、名古屋都市圏の環状道路が完成し、ネットワーク効果が飛躍的に高まるため、早期整備を図る必要がある。こうした中、平成22年4月9日、国土交通大臣より、高速道路の利便増進計画を見直した結果、名古屋環状2号線西南部・南部を高速道路会社による有料道路として整備する方針が示された。
- 名豊道路は、実質、国道1号線のバイパス機能を有し、三河港等の重要港湾と西三河南部の輸送関連機器等の主要産業拠点を結ぶ重要な東西軸である。既に計画区間の6割以上が供用し、残区間も全線で事業中であり、ネットワークの早期連結が可能である。
- 本県内の新東名高速道路は、平成26年度を完成目標に豊田東JCTから静岡県境間の整備が進められているが、静岡県側は、それより2年早い平成24年度に供用予定となっている。東名高速道路は、現在でも豊田東JCTから岡崎IC間の日交通量が約10万台に達するなど、慢性的な渋滞状況にあるため、新東名高速道路の1日も早い完成が急務となっている。
- 西知多道路は、中部国際空港と伊勢湾岸自動車道を連絡する国の中枢ネットワークを形成する路線であるため、国が責任を持つべき道路として早期事業化を図るべきである。

- 高速道路の料金施策を始めとした道路行政に関わる新たな制度設計に当たっては、地方の意見を反映し、地域の状況を十分踏まえ、地方負担の増加がないようにすべきである。

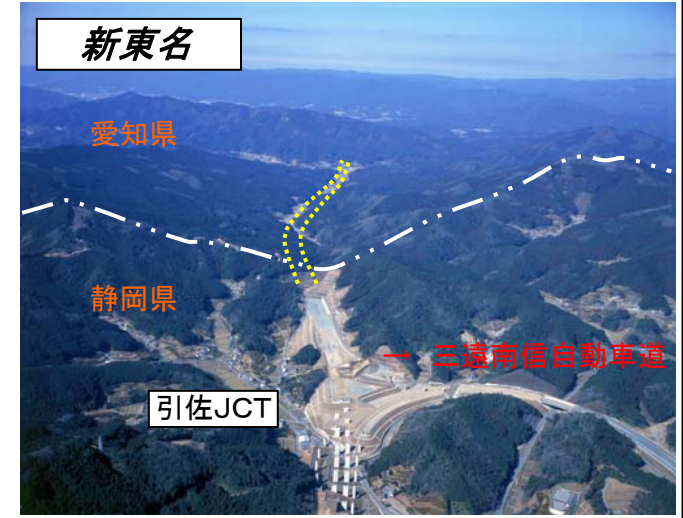
(参 考)

陸海空の拠点を結ぶ広域道路網の形成



愛知県幹線道路網図

東海環状自動車道
美濃関JCT～関広見IC
平成21年4月18日開通



平成22年6月現在

凡例	
(供用中)	※供用中には暫定供用含む
(計画・事業中等)	
	高規格幹線道路
	地域高規格道路 (計画路線)
	地域高規格道路 (候補路線)
	広域道路(交流促進型)
	一般国道等